備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成17年度		根拠法令・例規等	ｽﾎﾟｰﾂ振興法・備前市ｽﾎﾟｰﾂ振興審議会に関する条例　外
総合計画 大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	教育委員会ｽﾎﾟｰﾂ振興室
総合計画 中項目	基本施策	02	生きがいのあるまちづくり	問合先 職・氏名	室長補佐　山本香代子
総合計画 小項目	施　策	06	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	問合先 電　話	６３－３８１３
事務事業名		03	保健体育総務管理事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

事業の目的

対　象（誰・何に対して）	①補助金交付は各種ｽﾎﾟｰﾂ団体を対象　②ｽﾎﾟｰﾂ振興審議会・体育指導委員会の各委員 ③競技ｽﾎﾟｰﾂで高いレベルを目指し、県予選を勝ち抜き全国大会へ出場する者
目　的（何のために）	①活動補助金を交付することで、各種ｽﾎﾟｰﾂ団体がｽﾎﾟｰﾂ活動を展開しｽﾎﾟｰﾂ振興を行う。 ②備前市のｽﾎﾟｰﾂ振興を行うために会議等を行う。 ③激励金を交付することで、備前市の競技ｽﾎﾟｰﾂの振興に資する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	①活動補助金を有効に活用し、備前市のｽﾎﾟｰﾂ振興を行うと共に、ｽﾎﾟｰﾂ少年団の団員数、体育協会加盟団体を増やし、ｽﾎﾟｰﾂを通して健康で明るいまちづくりを目指したい。 ③県を代表し全国で活躍する選手を発掘し、青少年が夢と希望を持ってｽﾎﾟｰﾂ活動ができるようにしたい。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
保健体育総務管理事業	備前市ｽﾎﾟｰﾂ少年団・備前市体育協会への補助金交付等	◎
各種委員会	備前市ｽﾎﾟｰﾂ振興審議会年2回・体育指導委員会年4回の開催	◎
体育功労者・全国大会等出場選手激励金	市の体育の向上進展に寄与した者に表彰し、全国大会国際大会等に出場する選手に激励金を交付	◎

決算額

事業費等		単位	平成19年度実績		平成20年度実績		平成21年度実績	
事業費	直接事業費	千円		17,715		11,461		10,467
事業費	必要人員　人件費	千円	2.84人	23,122	1.05人	7,607	1.59人	15,334
事業費	事業費計	千円		40,837		19,068		25,801
財源	国県支出金	千円						
財源	受益者負担	千円						
財源	繰入金	千円						
財源	市債	千円						
財源	その他（　）	千円						
財源	一般財源	千円		40,837		19,068		25,801
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
全国大会等出場選手激励金		説明	国･県を代表して全国大会に出場するものに対して激励金を交付し競技ｽﾎﾟｰﾂの振興を図る。		
結果指標	結果指標量	人	169	118	114
結果指標	対前年比	%	－	69.8%	96.6%
結果指標	活動コスト	円			
結果指標	単位当たりコスト	円	0	0	0

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
全国大会等出場選手人数	目標値（A）	150	100	110	115
	実績値（B）	168	118	114	到達目標値
	達成率（B/A）	112.00%	118.00%	103.64%	120

成果指標設定の考え方・式や説明

指数は全国大会等の出場者を増やすことが目的であるが、平成20年から対象者を市内在住者で1人年1回の申請とした。実績値は国際大会･全国大会･小中学生の中国大会へ県予選を勝ち抜いて出場する選手で申請のあったもの。国民体育大会は選手・監督は申請でなく県からの名簿により岡山県選手団で備前市に住所を有するものに交付する。

事務事業の評価

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価

コスト手段

- ☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**B**

有効性の評価

目的達成度・市民参画度

- ☑ 成果指標の設定は適切である
- ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

進行年度（H22年度）の改革改善内容

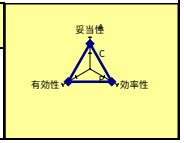
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：目標を持って競技ｽﾎﾟｰﾂに取り組み、県や国を代表して全国大会・国際大会等に出場することは、備前市のｽﾎﾟｰﾂ振興に大きく影響されるため、出場者への健闘と願いをこめた激励金交付は継続する必要がある。

総合評価

体育協会･ｽﾎﾟｰﾂ少年団への活動補助金交付については、合併以降市の方針により補助金を減額してきたが、ｽﾎﾟｰﾂ振興に欠かせない大会、審判講習会等を各種目団体による実施してもらうことにより、職員数減の状況でも内部調整し行うことができている。また、市主催の事業に対しても協力を得るなど、市民との協働ということで効率的で有効な事業であるが、団体からの強い要望と指導者の育成に必要な経費として22年度はｽﾎﾟｰﾂ少年団の補助金を若干増額をしている。今後も活動状況などにより補助金額を増減する必要がある。激励金交付事業は、特に競技ｽﾎﾟｰﾂの振興の面において継続する必要がある。

評価区分 <A～E>：**B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標：ｽﾎﾟｰﾂ少年団等の指導者を確保するための経費が必要なため、補助金額の増額を考える必要がある。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい